これからの大学教育

第11回FDフォーラム

申込要項

【申込期日】2006年2月10日（金）

【申込方法】

申し込みは下記URLの申込フォームにてお願いします。お申込いただいた方には、事務局より参加証をお送りしますので、当日必ずご持参ください。参加費につきましては当日会場受付にて徴収させていただきます。

URL:http://www.consortium.or.jp/consortium/fd/fdindex.html

※当日の参加申込は、会場の混み具合によって受付をお断りすることがあります。

参加費用

参加費区分	情報交換会含む	情報交換会除く
（財）大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学教職員	5,000円	3,000円
（財）大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学学生	1,000円	無　料
（財）大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学教職員、一　般	7,000円	5,000円
（財）大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学学生	2,000円	1,000円

企画検討委員会

委員長　菅野瑞治也（京都外国語短期大学英語科教授）

委　員　井奥　成彦（京都産業大学教育エクセレンス支援センター副センター長）
植山　俊宏（京都教育大学教育学部教授）
圓月　勝博（同志社大学教育開発センター所長）
大塚　雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
木野　茂（立命館大学大学教育開発・支援センター教授）
桐野由美子（京都ノートルダム女子大学人間文化学部生活福祉文化学科教授）
小林　隆（佛教大学教育学部専任講師）
近藤　久雄（龍谷大学大学教育開発センター長）
髙橋　伸一（京都精華大学教務部長・人文学部助教授）
中村　博幸（京都文教大学人間学部教授）
並木　治（大谷大学文学部教授）
浜崎　博（京都薬科大学薬学部教授）
松井　邦子（池坊短期大学文化芸術学科助教授）

会場案内図

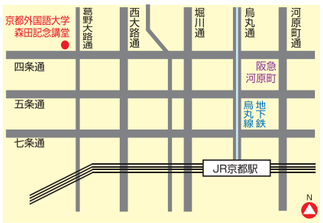
3月11日（土）会場　京都外国語大学森田記念講堂

●阪急電車「西院駅」から、西へ徒歩15分。
または「西大路四条」（西院）から市バス3・28・29・67・69・71に乗車、「京都外大前」で下車（所要乗車時間約5分）。
阪急電車「梅田駅」から「西院駅」まで快速急行で45分。

●JR「京都駅」からは、烏丸口より京都バス81・83、あるいは市バス28、八条口より市バス71に乗車、「京都外大前」で下車（ともに所要時間約30分）。

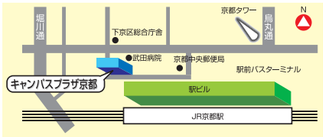
●地下鉄烏丸線利用の場合は、地下鉄「四条駅」下車、「四条烏丸」から市バス3・29に乗車、「京都外大前」で下車（ともに所要乗車時間約15分）

〒615-8558　京都市右京区西院笠目町6



3月12日（日）会場　キャンパスプラザ京都

JR京都駅下車徒歩3分　京都駅ビル駐車場西側
〒600-8216　京都市下京区西洞院通塩小路下る



【お問合せ】財団法人大学コンソーシアム京都
FDフォーラム担当
〒600−8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
キャンパスプラザ京都
TEL:075−353−9100（日曜・月曜を除く / 9:00〜17:00）
FAX:075−353−9101

これからの大学教育

第１１回ＦＤフォーラム

2006年
3月11日【土】
京都外国語大学　森田記念講堂
12:00〜17:00
（17:00より情報交換会）

3月12日【日】
キャンパスプラザ京都
9:30〜15:30

主催 / 財団法人大学コンソーシアム京都　後援 / 文部科学省、京都府、京都市

●タイムスケジュール●

1日目▶ 3月11日(土)
【会場】京都外国語大学森田記念講堂

12:00	●受付開始
13:00-13:10	●開会挨拶 ●会場校挨拶 堀川　徹志氏 (京都外国語大学・京都外国語短期大学学長) ●運営責任者挨拶 菅野瑞治也氏 (第11回FDフォーラム企画検討委員会委員長・京都外国語短期大学教授)
13:10-14:10	●基調講演 「これからの時代の大学教育」
14:30-17:00	●シンポジウム 「大学教育への期待」
17:00-19:00	●情報交換会

2日目▶ 3月12日(日)
【会場】キャンパスプラザ京都

9:30	●受付開始
10:00-12:00	●分科会(午前の部)
12:00-13:00	●休憩
13:00-15:00	●分科会(午後の部) (第1分科会)授業改善 ー双方向型授業の実践ー (第2分科会)全入時代における大学の課題 ー初年次教育・接続教育ー (第3分科会)短期大学の課題 (第4分科会)大学院大衆化時代の大学院教育 ー専門知をどう育てるかー (第5分科会)FD活動をどう組織化するか ーFDの具体化と学生の役割ー (第6分科会)大学におけるキャリア教育 (第7分科会)意欲の喚起と動機付け (第8分科会)大学間授業連携の先進的取組 ー現代・特色GPとITのO化(OpenCourseWare構想)を中心にー
15:00-15:30	●大学コンソーシアム京都事業説明

第11回FDフォーラム

これからの大学教育

基調講演

テーマ「これからの時代の大学教育」

【講　師】安西祐一郎氏(慶応義塾長)

大学をめぐる状況は目まぐるしく変化しつつある。新しい大学教育を目指すのであれば、これからの時代がどうなるのか、冷静に、また熱い心をもって予測しなければならない。そして、各大学は、その予測のうえに、どういう方向で何をすべきかを真剣にとらえ、リスクを背負って踏み出さなければならない。本講演では、具体例として慶應義塾大学の大学教育について述べながら、これからの時代、その中での大学教育のあり方について述べる。

シンポジウム

テーマ「大学教育への期待」

【シンポジスト】寺﨑　昌男氏(立教学院本部・立教大学総長室調査役、東京大学・桜美林大学名誉教授)
北川　正恭氏(早稲田大学大学院公共経営研究科教授)
椋本　　洋氏(立命館大学高大連携推進室教授)
【コーディネーター】圓月　勝博氏(同志社大学教育開発センター所長)

激変する日本の高等教育において、各大学は個性の確立を目指して様々な取り組みを行っている。FD活動が大学教育の個性化のために不可欠であることは言うまでもないが、この十年間の大学改革の中で、日本の大学においても一応の定着を見たFD活動の内実を新たな時代に向けてさらに充実するためには、大学教育にはどのようなことが求められているのかという基本点をあらためて明らかにすることが肝要と考える。
そこで、様々な立場からの意見をうかがいながら、「大学教育への期待」に関して意見交流を行いたい。

●分科会プログラム●

第1分科会:授業改善 ー双方向型授業の実践ー

授業改善の分科会はこのフォーラムでもほぼ毎回続けられており、授業改善のためのツールやスキルの開発、授業計画の工夫、授業アンケートの利用、授業および学習の支援システムなど、すでに多くの報告がある。しかし、それらを活用して、実際の授業の中で教員と学生や学生同士の双方向のコミュニケーションを実現し、授業内容への学生の理解を深めるとともに授業における学生の主体的な学習を導き出すことは容易ではない。これからの授業改善の目標はこのような双方向型授業をいかにして実現するかであろう。今回は、それぞれ独自の工夫をこらしながらそのような授業を実践している方々の報告をもとに、双方向型授業をテーマに議論したい。

●報告者　木野　　茂氏(立命館大学大学教育開発・支援センター教授)
宇田　　光氏(南山大学総合政策学部教授)
安藤　香織氏(奈良女子大学生活環境学部講師)
橋本　　勝氏(岡山大学教育開発センター教授)
●コーディネーター
井奥　成彦氏(京都産業大学教育エクセレンス支援センター副センター長)
木野　　茂氏(立命館大学大学教育開発・支援センター教授)

第2分科会:全入時代における大学の課題 ー初年次教育・接続教育ー

大学や学生が多様化し、18歳人口の減少による大学全入時代を現実のものとして予感する昨今の大学教育の状況において、初年次教育・接続教育はますます重要になってきている。その実践においては「有名校」が出現するほど、かなり積極的に行われているが、多くの大学にとって求められているのは、身近な確固とした実践例であろう。初年次教育・接続教育の現状を俯瞰する視座を獲得しながら、授業などの具体的な実践を一般化し、固有の参考例の紹介を通じて今後の初年次教育・接続教育のあり方を活発に議論する場にしたい。

●基調提案　池田　輝政氏(名城大学人間学部教授)
●報告者　三尾　忠男氏(早稲田大学教育学部教授)
遠山　紘司氏(神奈川工科大学教育開発センター教授)
●総括報告　藤田　哲也氏(法政大学文学部心理学科助教授)
●コーディネーター
中村　博幸氏(京都文教大学人間学部教授)
髙橋　伸一氏(京都精華大学教務部長・人文学部助教授)

第3分科会:短期大学の課題

短期大学の「現在」は厳しい。特に、専門学校との競合が事実上の課題となっているなか、学生や保護者の期待に資格取得や就職率の上昇をもって応えようとする「実学化」の傾向が著しいことは否めない。しかし他方、平成18年からは、短大は「短期大学士」を社会に送り出すこととなる。その学位に求められているものは、専門学校の職業教育とはまた異なった特性としての「教養」、言わば人間力の涵養ではないだろうか。「実学」と「教養」との間で、短大の存在意義はどこにあるのか。個性ある短大の創生はいかにして可能なのか。本分科会では、短期大学のあり方をめぐって、出席者参加の討論を行い、現実から理想までを徹底的に議論してゆきたいと考えている。

●報告者　吉川　杉生氏(中部学院大学短期大学部助教授)
●コーディネーター
浜崎　　博氏(京都薬科大学薬学部教授)
松井　邦子氏(池坊短期大学文化芸術学科助教授)

第4分科会:大学院大衆化時代の大学院教育 ー専門知をどう育てるかー

近年、大学院は、独立大学院大学、通信制大学院、専門職大学院といった、新たなタイプの大学院が生まれるなど、その幅が急速に広がりつつある。さらに、学部3年次修了からの飛び級や最短1年で修士の学位が取得可能になるなど、時間的に言わばタテ方向の多様化も進みつつある。その高度専門教育におけるタテの多様化として「飛び級」について、一方、ヨコの多様化として「専門職大学院」について、具体的事例やその課題を紹介いただき、また、大学院教育(専門教育)に関する「質保証」に関する話題提供も踏まえて、今後の大学院教育、専門知の育成のあり方について、参加者と共に議論を深めていきたい。

●報告者　上野　信雄氏(千葉大学大学院自然科学研究科教授)
山田　礼子氏(同志社大学大学院社会学研究科教授)
黒田光太郎氏(名古屋大学大学院工学研究科教授)
●指定討論　荻上　紘一氏(大学評価・学位授与機構評価研究部教授)
●コーディネーター
大塚　雄作氏(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

第5分科会:FD活動をどう組織化するか ーFDの具体化と学生の役割ー

FD活動の組織化を考える場合、大学と社会、教員と事務職員、FDセンターと教員あるいは学部や学科、そして教員と学生等々、様々な要素を考えねばならない。
本分科会では、そうした様々な要素のうち、教員と学生という点に焦点を絞り、とりわけ教員がFD活動の中に学生を取り込んでゆく場合のありかたについて考えてみたい。ご報告いただく方々は、それぞれ規模や性格の異なる大学や学部に所属して、それぞれに独自の方法でFD活動の中に学生を取り込む工夫をされている。
FD活動への学生の参加について、その多様なあり方について論じてみたい。

●報告者　溝上　慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター助教授)
久保田賢一氏(関西大学総合情報学部教授)
宇佐見義尚氏(亜細亜大学経済学部助教授)
●コーディネーター
近藤　久雄氏(龍谷大学大学教育開発センター長)

第6分科会:大学におけるキャリア教育

多々ある「キャリア教育」の定義の中、文部科学省は「学生個々に望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としている。
昨今、若年者雇用が社会的問題となる中で、特に社会に対し人材を輩出する役割を担う大学で高い職業意識・能力を有する若者の育成が、益々重要視されていることから、各大学で、職業意識を形成するための授業科目やインターンシップの導入など、キャリアに関する教育に着手し始めている。
このような現状を踏まえ本分科会では、企業を経験し、現在学生のキャリア教育に携わっている報告者より、企業が求める学生像、及び大学教職員から発信できる支援等について検討する。

●報告者　岡本　武史氏(就職ジャーナリスト)
山崎　聡子氏(キャリア・カウンセラー)
濱中　倫秀氏(京都ノートルダム女子大学インターンシップディレクター・キャリアアドバイザー)
●コーディネーター
桐野由美子氏(京都ノートルダム女子大学人間文化学部生活福祉文化学科教授)
小林　　隆氏(佛教大学教育学部専任講師)
友繁　博美氏(京都ノートルダム女子大学学生部就職課長)

第7分科会:意欲の喚起と動機付け

大学教育における「意欲の喚起」や「動機付け」は、入学後の教育の充実はもとより、進路の選択、適性の判断といったキャリア教育的な側面から見て、大学教育の根幹を成すものではないかとという積極的な価値付けが行われるようになっている。
当分科会では、授業、授業内外の関連的な指導、学生相互の働きかけなどさまざまな観点・方法から「意欲の喚起と動機付け」に関する取り組みを報告し、大学教育の向上につながる検討を行いたい。

●報告者　遠藤　　仁氏(宮城教育大学教育学部教授)
朝比奈英夫氏(京都光華女子大学文学部助教授)
植山　俊宏氏(京都教育大学教育学部教授)
●コーディネーター
並木　　治氏(大谷大学文学部教授)

第8分科会:大学間授業連携の先進的取組 ー現代・特色GPとITのO化(OpenCourseWare構想)を中心にー

京都地域を含む全国各地域コンソーシアムでの大学間連携による単位互換・授業連携事業を取り上げる。これらの事業を各大学・短期大学の「学び」を補完する総合的「連携型教育システム」の1つと位置づけ、平成16年度特色GP(大学コンソーシアム京都:「大学連携による新しい教養教育の創造」)および平成16年度現代GP(首都圏西部大学単位互換協定会:「大学間連携による教養教育への総合的取組」)を中心に、大学間連携による総合的単位互換制度および教養教育への総合的取組の現状と課題を紹介する。さらに、ITを活用した近未来の単位互換制度として、OpenCourseWare構想を論じ、その先進性についての理解を深めることを目指す。

●報告者　本郷優紀子氏(桜美林大学・単位互換協定会事務局課長)
室住　賢一氏(龍谷大学教学部事務部長)
宮崎　　耕氏(同志社大学経済学部教授)
●コーディネーター
山内　信幸氏(同志社大学文化情報学部教授)